

2020年4月12日 大井バプテスト教会 イースター礼拝説教
説教題「希望に向かう命」ヨハネによる福音書11章25～26節

主任牧師 加藤 誠

**「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は死んでも生きる」(ヨハネ11・25)。
「あなたがたは悲しむが、その悲しみは喜びに変わる」(ヨハネ16・20)。**

このように困難あふれる状況のただ中に、イースターの喜びを届けてくださる神さまに感謝したい。

日々刻々伝えられる感染のニュースに心を重くさせられる毎日を過ごしている。世界中で毎日おびただしい方々の命が奪われ、懸命に医療に尽くしている方たちの叫びが響いてくる。日本でも緊急事態宣言が経済を直撃し、収入面で大きな影響を受けている友、家族の健康に不安を抱えている友、予定されていた病院の検査が延期になった友たちの声のごく身近で聞かれるようになってきた。「これからいったいどうなるのだろう」という先行きの見えない不安が私たちの心を暗く覆っている。

けれども二千年前、イエス・キリストは、私たちがこの地上で経験する最も深い暗闇を突き破って「希望に向かう命」をあらわしてくださった。

それがイースターの出来事である。

イエス・キリストと出会う時、「死に向かって生きる命」は「希望に向かって生きる命」に変えられていく。福音書にはその証言があふれている。

主イエスが道を歩いておられた時に、生まれつきの盲人を見られた(ヨハネ9章)。「生まれつき盲人であること」。二千年前の社会で、それは「癒される可能性がまったくない」、「呪いに満ちた宿命」を生きることを意味した。「この人が生まれつき目が見えないのは、誰が罪を犯したからですか。本人ですか。それとも両親ですか」と弟子たちが、いわゆる「上から目線」で、自分たちとは「違う人種」でも見るかのように、盲人を見下ろすように語った時、主イエスはこう応えられた。「本人が罪を犯したからでも、両親が罪を犯したからでもない。神の御業がこの人の上にあられるためだ」と。つまり、この盲人は、あなたたちが見ているように、「呪われた、かわいそうな存在」では決してない。神のまなざしにおいては「大切な命を与えられ、神がその人生の上に御業をあらわされる、尊い存在」であると言い抜かれたのだった。そして、主イエスの癒しによって、盲人の「呪いに満ちた宿命」は打ち砕かれ、彼の人生は「神の御業があらわされる、希望の人生」に変えられたのである。

また、死の病によって最愛の弟を奪われたマルタとマリアの姉妹は泣き崩

れていた（ヨハネ 11 章）。「イエスさま、どうか弟を助けてください！」という彼女たちの必死の SOS にもかかわらず、主イエスがすぐ応えて駆けつけてくださらなかったことへの不信と落胆も、その涙には含まれていたかもしれない。「イエスさま、なぜですか?」。死の現実の前に、私たち人間は無力であり、何もしえない。死の悲しみは、私たちの小さな信仰を打ち砕く。しかし主イエスが墓穴に向かって「ラザロよ、出て来なさい」と呼びかけられる時、ラザロは死の中から起こされ、死の絶望の涙は、希望に向かって歩む賛美に変えられていったのだ。

また、十字架において信仰が粉々に砕かれ、言葉なく、暗い部屋に閉じ込もっていた弟子たちの真ん中に立たれた復活の主イエスは、彼らの裏切りと不信を責めるのではなく、「平和があるように!」と声をかけ、「聖霊を受けよ」と言って弟子たちに息を吹きかけ、主なる神の使命に立ち上がる力を注がれた。私たち人間が持ち合わせている力は、実に貧しい。信じることにしても、愛することにしても、そして正しいことを貫いていく勇氣においても、私たちは実に貧しい。逆風が吹くと、たちまちおびえ、暗闇の力を前にすると、誘惑の声にからめとられてしまう弱さを抱えている。

けれども、十字架を貫いて私たちに神の深い愛をあらわされた主イエスが私たちの真ん中に立って下さる時、そして、主イエスが聖霊の息吹を私たちに注いでくださり、私たちに新しくしてくださる時、私たちは「死に向かう命」から「希望に向かう命」に変えられていくのだ。

**「眠りにについている者よ、起きよ。死者の中から立ち上がれ。
そうすれば、キリストはあなたを照らされる」(エフェソ 5・14)。**

死から希望の命への方向転換。それが復活である。

私たちが自分の願いを優先し、自分の正しさにこだわり、神に背を向けている時、私たちは自分では気づかないけれど、実は死に向かう道を歩んでいる。私たちのエゴは憎しみと分断と争いしか生みださず、平和をつくり出すことができないからだ。

十字架の主は、そのような私たちの生き方がどれだけの外れであることを示される。そして、ご自身の命をささげてまで、私たちがほんとうに心と体を向けて生きるべき神の真実の愛をあらわしてくださった。

復活の主は、十字架の深い釘（くぎ）跡の傷を帯びておられる主である。しかし、この復活の主が深い愛を込めて私たちに聖霊を注ぎ、新しい命に、希望に向かう命に、私たちに立ち上がらせてくださる。

この大きな困難の中を、主イエスの希望の光に照らされて歩んでいきたい。